

## 携帯電話についてのお願い

近年、携帯電話やスマホ（スマートフォン）が子どもたちに与える影響について、さまざまな警鐘が鳴らされていることはご存知の通りかと思えます。特に、スマホをはじめとする機器の機能（LINE・Twitter・Instagram など）を利用した様々なトラブルの危険性が大きくなってまいりました。本校でも、全校生対象に携帯安心教室を実施するなど、その取り組みを進めているところです。

新入生の保護者のみなさまにも、下記内容について、ご理解の上ご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

### 第四中学校区としてのお願い

一旦持たせた携帯電話・スマホを子どもから取り上げることは非常に困難です。

いつ、どのような形でどんな携帯電話を使用させるかは、ご家庭で十分話し合い、ルールを確認したうえで、判断してください。

便利な存在である携帯電話・スマホとの出会いがより有意義なものとなりますように、十分な配慮をお願いいたします。

第四中学校校区の3校（四中・豊川南小・萱野東小）でも協議し、携帯電話に関する校内持ち込み禁止のルールを統一し、地域一体となって子どもたちを携帯電話・スマホやインターネットの被害から守るために、同様のお願いを保護者のみなさまにさせていただいています。

**子どもたちの携帯電話の使用については、さまざまな悪影響が考えられます。携帯電話を 学校に持ってこないように お願いします。**

- 1 保護者がケータイ・スマホの危険性を十分に知ろう
- 2 小学生にケータイが必要なのか考えよう
- 3 もし持たせる場合は、最低限、下記のことを行おう

①夜の使用時間を限定する！

⇒（夜は居間の充電器へ置くようにしましょう）

②必ずフィルタリングを設定する！

⇒（ケータイを与えているのに未設定の場合、ぜひご検討を）

③定期的にケータイの使用状況について話し合う！

⇒（与えても、その携帯電話はおうちの方のものです）

心を大切にしたケータイとの付き合い方ができる時期をみて与えましょう。

※箕面市では、子どもの安全な登下校のために、平成22年度から「学校防犯システム」という見守りシステムを導入しており、子どもたちがいつ登校し、いつ校門を出て下校したか、把握できるようになっています。

## 携帯・スマホは親の責任



ケータイは、おとなの目が届かない危険な道具になることがあります。

### ◆改めて親子でモラルを話し合おう◆

興味本位で自分の情報をネット上にのせたり、友だちや家族との画像をメールやFacebookで送ってしまったたりする人が爆発的に増えており、低年齢化しています。いったんネット上にのった個人情報は消すことができませんし、思わぬ利用をされ将来に悪影響をもたらすほど取り返しのつかない事態を引き起こしているのは、マスコミでも報道されている通りです。

昨今、LINEは使って当たり前のツールとなりました。「いじめ」や「危険な出会い」というトラブルに、子どもだけでなく大人も引きこまれています。

また、自分の名前を伏せることで、モラルを軽んじてしまうという落とし穴に、大人も子どももはまって、「いじめ」などの事件を引き起こす側になるということが起きています。

相手が目の前にいてもいなくても、匿名性があってもなくても、モラルは変わりません。自分の言動に責任を持って携帯電話・スマホを活用する為に親子でモラルについて話し合みましょう！

### ◆保護者もしっかり知ろうスマホの危険◆

インターネット上には、わいせつ画像、薬物の販売情報、家出をさそう掲示板など、さまざまな有害情報があふれています。フィルタリングをかけることは有効ですが、スマホではフィルタリングが困難です。また、子どもたちにおもちゃとして与えているゲーム機(DS、switchなど)もインターネットに無線でつながるようにしていませんか？

子どもの持っているネットの知識に保護者が追いつかず、保護者の知らない間にさまざまな情報や出会いに子どもがさらされることが多いのです。どんどん送り込まれる“宣伝”をさわっているうちに、身に覚えのない請求メールが来たり、とんでもない所にメールアドレスを送ってしまい事件に巻き込まれたりすることも起きています。また、子どもは電子マネーの怖さをわからず、親の知らぬ間に買い物をして、何万円もの請求書が送られてくることも起こっています。

### ◆深刻な携帯依存症◆(ゲームを含む)

携帯依存症とは、正式な病名ではありませんが、ケータイから離れることが友だちと離れるという不安にすり替わって、子どもがケータイを常に手元に置き、多くの時間を費やしてしまう現象です。

書き込みを相手を読んだかどうか分かる「既読」機能のあるLINEは、グループで行うことも多く、メール以上にグループ内でのしごらみが複雑で、「依存」というよりは「抜けられない縛り」となります。